

砺波総合病院から



外科・緩和ケア科
金木昌弘

市立砺波総合病院 ☎32-3320
ホームページ <http://www.city.tonami.toyama.jp/tgh/>

『緩和ケア、緩和医療』とは？

「緩和ケア（緩和医療）とは？」と聞かれて、はつきりと答えられる人は少ないかもしれません。

『緩和医療とは、生命（人生）を脅かす疾患による問題に直面している患者やその家族の、QOL（人生の質、生活の質）を改善するアプローチのことです。苦しみを予防したり和らげたりすることなされるものであり、そのために痛みその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと治療を行うという方法がとられる』(WHOの定義文2002より)とある

ります。

緩和という言葉自体、「きびしい状態がやわらぐこと。また、ゆるめたり、やわらげたりすること」とされますが、治療として「ほどほどの、その人の」医療をさすものではありません。また、ここでいう疾患とは、がんがほとんどです。

☆がんの痛みとは

いろいろな要因があげられますが緩和ケアでは以下の4つに分けられます。

○身体的要因

からだの痛みで、がんが進行すればするほどその痛みも強くなります。

○心理的要因

こころの痛みで、不安・いらだち・孤独感・恐れ・怒りなどと表現されます。

○社会的要因

仕事上、経済上の理由でも痛みが occurs。家庭内の問題や人間関係などもこれに入ります。

○スピリチュアルペイン

おもに死の恐怖でおこります。これら様々な痛みを放置すると、最終的にはその人がその人らしくいられなくなってしまうので、早期（理想的にはがんが診断されたその時点から）の対処が必要になります。

☆痛みをやわらげる

からだの痛みをやわらげるためにモルヒネに代表されるオピオイドという

「医療用麻薬を他の薬と組み合わせ使います。麻薬と聞くと怖い薬と思われるかもしれませんが、決められた副作用対策をすれば、普通の薬と同じです。こころの痛みをやわらげるには、痛みを低下させる因子を取り入れるような十分な配慮が必要です。不安の解消、人とのふれあい、理解、共感、尊厳性の確保、十分なコミュニケーションなどといった言葉で表されます。これらの配慮をするには緩和ケア特有のスキルが必要とされます。

当院では知識、スキルを持った医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・作業療法士・ソーシャルワーカーなどがチームを組んで活動しています。

☆緩和ケア病棟

当院には緩和ケアを専門に行う病棟が8床あります。



畳の部屋もあります

この病棟は、がん患者さんのからだや心の痛みの緩和を最優先し、その人らしい時間を過ごせることを目指した専門病棟です。総合病院という利点を生かし、他科（放射線科、東洋医学科、針灸、精神科、整形外科など）と連携した痛み緩和のための医療も提供しています。

☆緩和ケア外来

毎週木曜日、午後の緩和ケア外来でがん患者さんの診察や症状の緩和についての相談を受け付けています。自宅での療養を希望される場合、訪問看護ステーションとの連携を図り、安心して在宅療養ができるよう支援します。入院や介護の相談も随時受け付けています。「痛い」、「苦しい」など、どんな悩みでも何なりとご相談ください。

患者さんのためのサロン案内



利用日時 毎週水・木曜日の
午前10時～午後4時
(祝日・年末年始を除く)

場所 病院南棟2階
がん相談支援センター内

問合せ がん相談支援センター
☎32-3320